

成をはかり、農業の近代化に積極的に貢献しようとしてつとめているが、さらに充実した施設、設備のもとに指導内容、方法の改善に検討を加えていくことが必要である。

イ 工業関係高等学校の学科および募集定員の状況は、第71表のとおりである。

公立の募集定員の多いのは、機械科で全日制21.5%、定時制4.8%となっている。次いで、電気科が全日制15.5%、定時制10%となっている。その他の工業に関する学科が多様であることが注目される。

- (イ) 工業高等学校においては、最近の技術革新に対処して、工業の各分野における中堅技術者に必要な知識と技術を修得させるとともに、工業技術の進歩を図ろうとする能力と、工業人としての自覚を養うことにつとめている。

しかし、工業教育は、とくに学校教育の枠内だけで考えることは困難であり、産業社会と学校との両者共同の責任で、技術者を育てるという体制を必要とする。科学技術の「高度の進歩」「作業の単純化」「生産の巨大化」によって中級の技術者は、上の方にひきあげられた技術者群と、作業ラインに接した群とに分化される傾向にあるので、これに対応した教育内容、方法が必要である。

ウ 商業に関する学科

- (ウ) 商業高等学校の学科および募集定員は、第72表のとおりである。

第72表 商業に関する学科の学級数と募集定員 (昭和40年度)

公 立	私 立	全・定	学 校 数	学 級 数	募 集 定 員	定 員 比 率 (%)
公 立	私 立	全 日 制 定 時 制	18 6	65 7	3,570 280	77.2% 6.1%
私 立	公 立	全 日 制 定 時 制	5 -	15 -	775 -	16.7% -
計			29	87	4,625	100.0%

学科は、商業科単一であり、昭和40年度の募集定員は、公立83.3%となっている。

- (イ) 現在商業高等学校に在学する生徒には、卒業後直ちに実務に従事する者と、上級学校に進学するものがある。実務に従事する者も千差万別の職種に就職している。また男女の別によって就職先の職種も生涯の生活も異にする。しかるに現行学習指導要領は、男子を中心とした商業教育一般についての基準を示すものであって、いたずらに広範な知識技能を浅く広く学習することを要求し、生徒個々の特性を生かし、社会の要望にこたえることが困難である。そのうえ、今日商業教育の対象となる実務の内容は、日々大きな変容をとげているので、それに即応した教育内容、方法の改善が必要である。